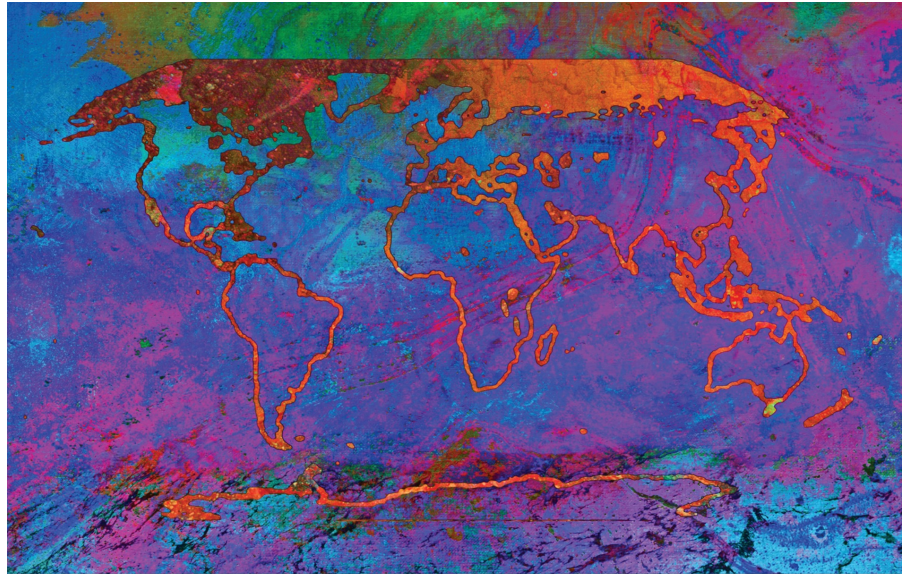


IPCC第6次評価報告書（第1作業部会） から見えること



国立環境研究所 地球システム領域 副領域長

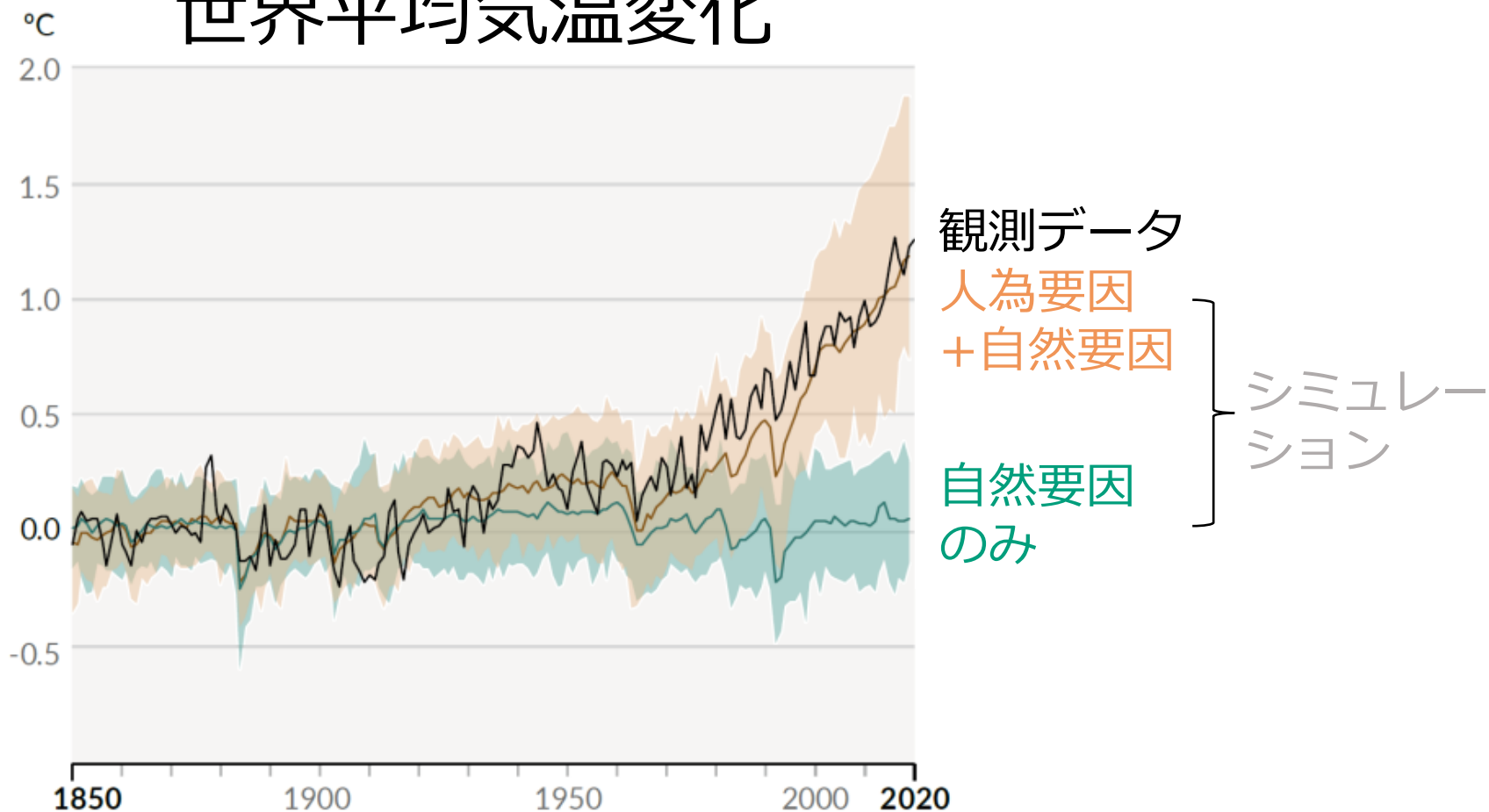
東京大学 総合文化研究科 客員教授

総合地球環境学研究所 客員教授

江守正多

(IPCC WGI AR6主執筆者)

世界平均気温変化



観測された変化 : +1.06°C

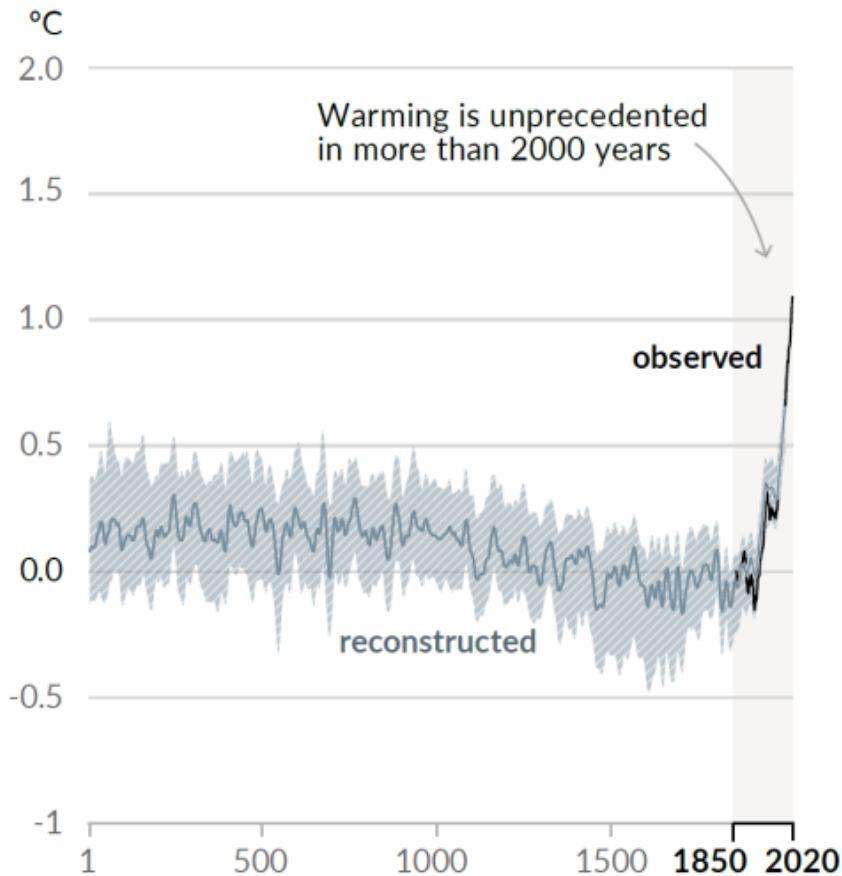
人間活動の寄与 : +1.07°C

(2010-2019年まで)

(IPCC WGI AR6 Figure SPM.1bより)

西暦1年からの気温変化

世界平均気温変化



最近の世界の気温上昇は
過去数千年間で前例が無い

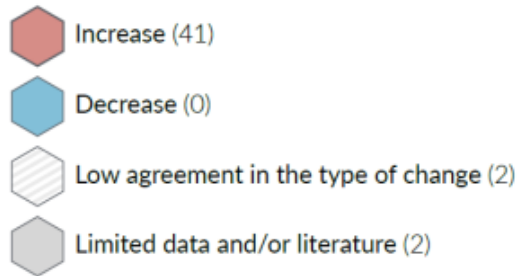


「ホッケースティック」

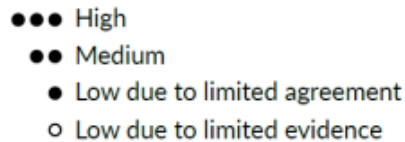
(IPCC WGI AR6 Figure SPM.1aより)

観測された極端な高温の地域ごとの評価

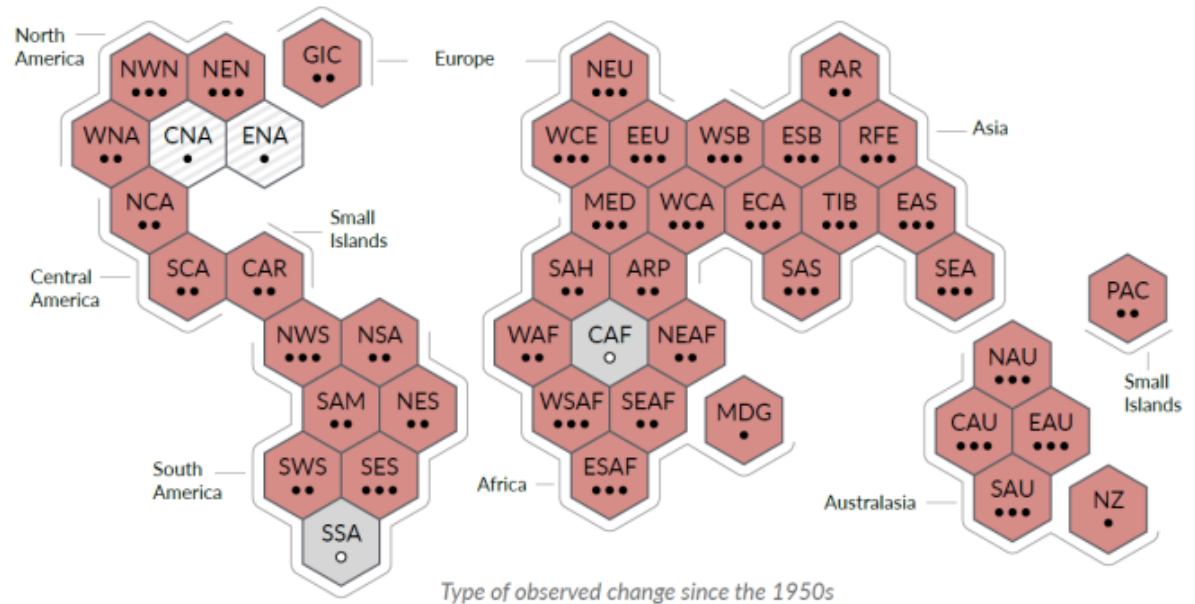
Type of observed change in hot extremes



Confidence in human contribution to the observed change

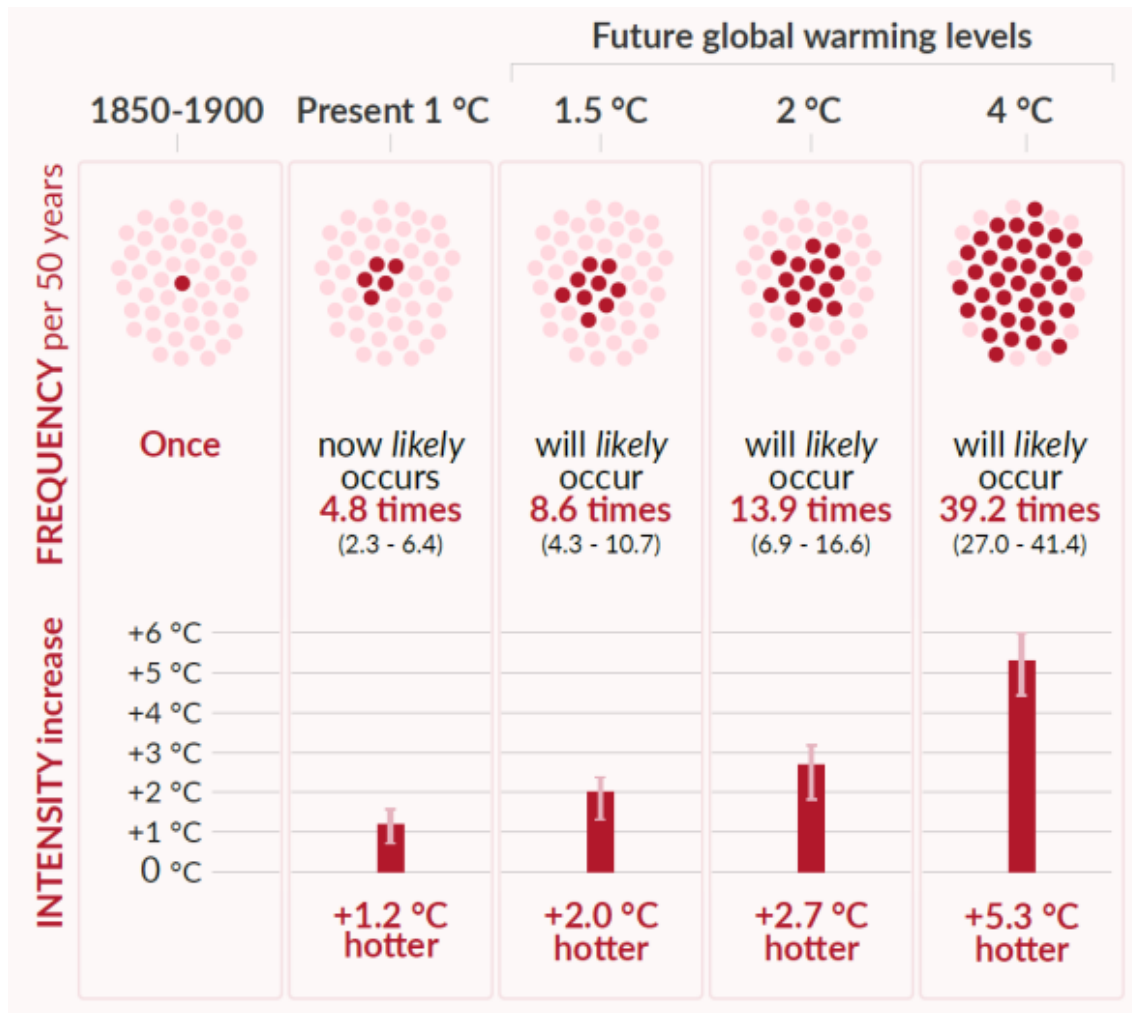


a) Synthesis of assessment of observed change in **hot extremes** and confidence in human contribution to the observed changes in the world's regions



(IPCC WGI AR6 Figure SPM.3aより)

50年に一度の暑い日



産業革命前に比べて
現在（～1°C温暖化）

4.8倍

1.5°C温暖化で

8.6倍

2°C温暖化で

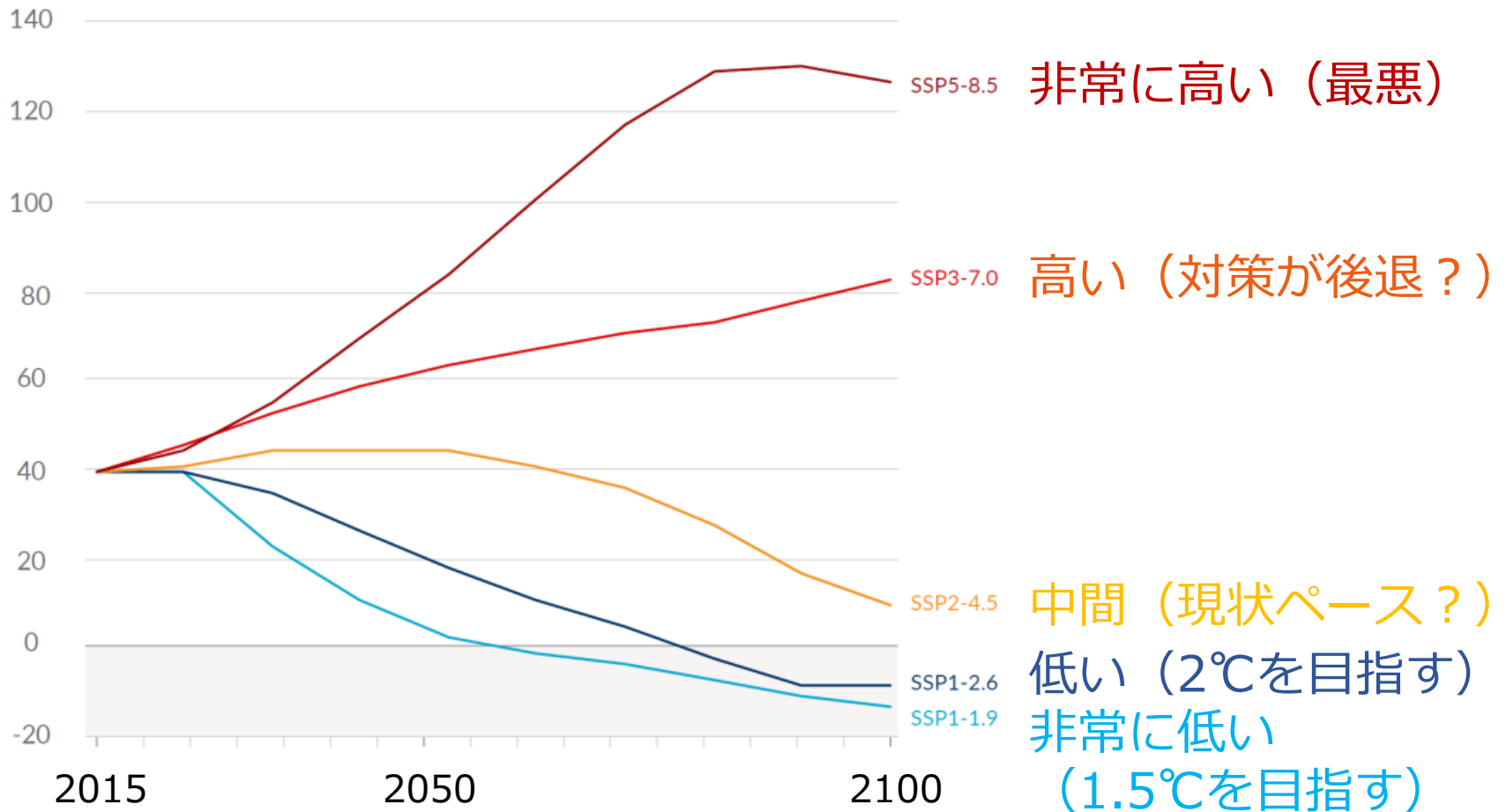
13.9倍

の頻度

(IPCC WGI AR6 Figure SPM.6より)

IPCCの5つのシナリオ

世界のCO₂排出量 (GtCO₂/年)

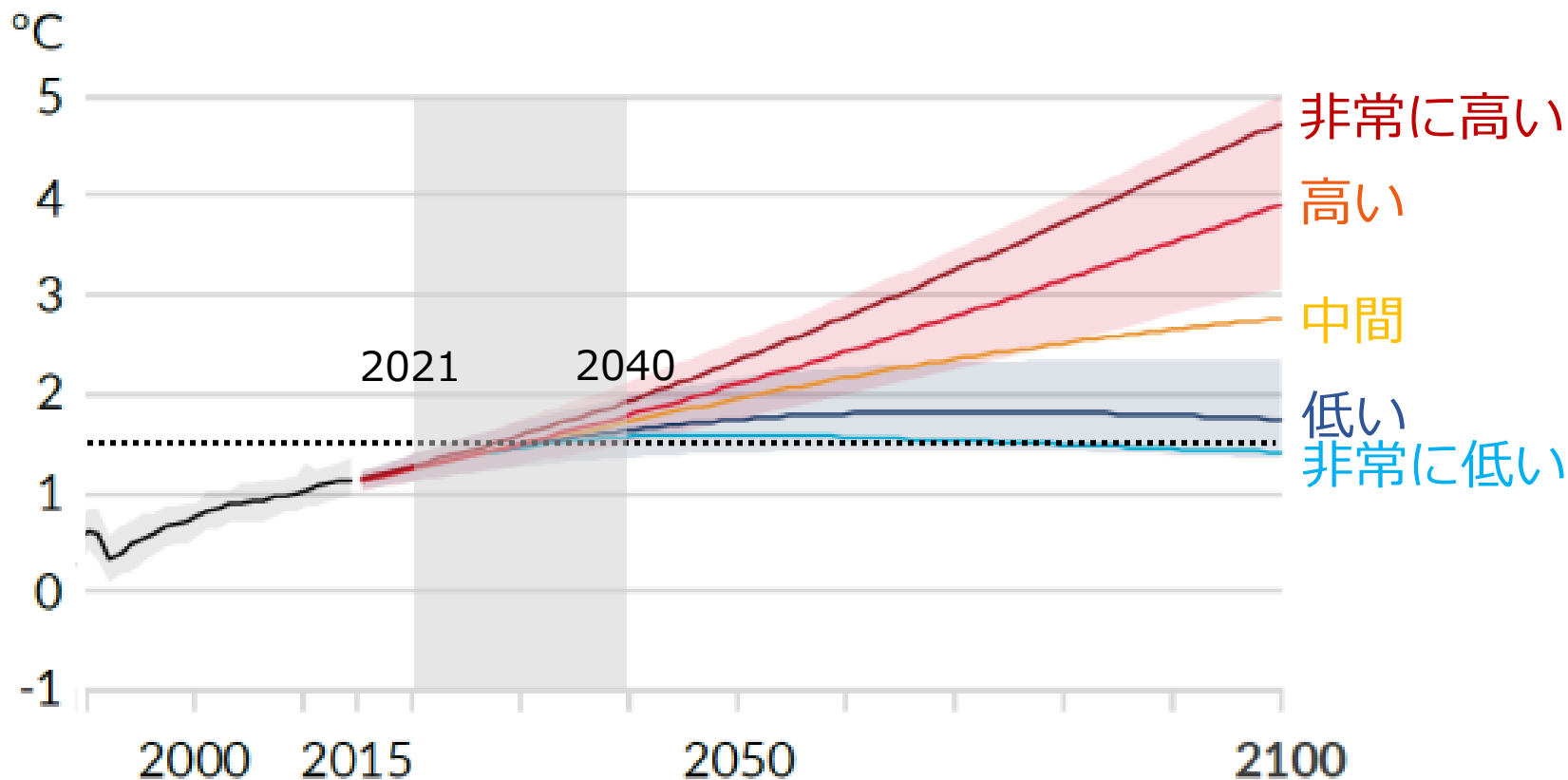


(IPCC WGI AR6 Figure SPM.4aより)

世界平均気温の変化見通し

2021~2040の平均が1.5℃を
超える可能性が~50%かそれ以上

世界平均気温の変化



(IPCC WGI AR6 Figure SPM.8aより)

この知見をどう活かすか？

1. 物理リスクへの適応

- 国内の災害だけでなく、サプライチェーン、地政学リスクを含む
- WG2報告書（来年2月公表）にも注目

2. 脱炭素への移行

- 脱炭素の必要性、スピードを理解
- WG3報告書（来年3月公表）にも注目

3. 人類の課題として直視

- 企業のpurposeの前提に！